

3月の銅マーケットレポート及び4月の見通し (3)



橋本アルミ (株) 橋本健一郎

【住宅】

- 平成29年2月の住宅着工戸数は70,912戸で、前年同月比で2.6%減となった。また、季節調整済年率換算値では94.0万戸（前月比6.1%減）となった。
- 住宅着工の動向については、前年同月比で8ヶ月ぶりの減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家は増、分譲住宅は減となった。
- 引き続き今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。
(持家)
前年同月比では先月の減少から再びの増加(前年同月比1.6%増、季節調整値の前月比では6.1%増)。
(貸家)
前年同月比では16か月連続の増加(前年同月比6.8%増、季節調整値の前月比では2.2%増)。
(分譲住宅)
前年同月比では3か月ぶりの減少(前年同月比17.9%減、季節調整値の前月比では26.4%減)。
(分譲マンション)
前年同月比では3か月ぶりの減少(前年同月比35.7%減)。
(分譲一戸建住宅)
前年同月比では16か月連続の増加(前年同月比0.9%増)。

【伸銅品生産】

- 伸銅品生産 前年比+3.9%の6万8193 t 10か月連続増加
- | | | | |
|-----|----------|--------|-----------|
| 内需 | 5万6276 t | +2.7% | 7か月連続プラス |
| 輸出 | 1万1917 t | +10.2% | 4か月連続プラス |
| 銅条 | 2万1864 t | +9.9% | 10か月連続プラス |
| 黄銅棒 | 1万6680 t | +5.7% | 10か月連続プラス |

【電線】

- 前年比-5.2%の5万5300 t
うち、国内-4.1%、輸出が-42.5%
通信-5.9%、電力-20.9%、電気機械-0.8%、自動車+4.1%、建設電販-6.6%、その他内需+7.9%

【輸出】

- 電気銅輸出が-25.1%の4万3893 t。
銅スクラップは+39%の2万6千 t。

【輸入】電気銅が-35.6%の1196 t。

スクラップは-6.9%の7846 t。

【見通し】

- 自動車は生産が+11.2%。3月の国内販売台数が前年比+13.8%
生産が5か月連続プラス、販売も6か月連続プラス。
生産、販売共に2ヶタ増加しており今後の動向に注目
- 住宅着工の動向については、前年同月比で8ヶ月ぶりの減少となっており、今後の動向に注意が必要

- 伸銅品 10か月連続プラスの前年比+3.9%。
需要の多い銅条が、10か月連続プラス。黄銅棒も10か月連続プラス、輸出が4か月連続プラス。
今後の回復に期待。
- 電線 輸出が-45.2%と大幅減。
需要の多い 自動車、建設電販がそれぞれ +4.1 -6.6%
全体として減少傾向。
- 銅輸出は ここ最近の価格の下落傾向と期末要因から 地金は減少。スクラップはメーカーの買い控え傾向から増加
- 銅輸入は期末要因の買い控えから減少

【スクラップ需給予想】

流通在庫は昨年からのトランプフィーバーを受けて大幅増加したがその後 価格は高止まりしているものの売り玉もなく大幅減少しているのではないかと
需要面に関しては、住宅で陰りがみられるものの、自動車など生産販売は好調であり、新年度入りした4月一斉に買いが始まり需給が引き締まるのではないかと

【価格・為替予想】

今月もトランプ米大統領の発言・政策と米中会談後の左右される。

トランプ米大統領に関しては、先のオバマケアの代替法案が議会で通過したことから政権運営に不透明感が出てきている事は確か。今後 大幅減税、金融規制緩和などの法案が通過するかどうか注目。

米中会談は、国境税問題・領土問題があるが、国境税問題などに関してはお互い一定の理解を示すものの、領土問題では両者譲らず平行線の議論になるのではないかと。

それらを踏まえた4月の銅価格は、トランプ米大統領の法案や人事が議会で問題なく通過し米中会談で新たな摩擦がおきなかった場合、(領土問題の未可決は織り込み済み)

3月一段高の6000ドルを予測。いずれかの場合は5850ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった場合3月後半安値の5700ドル。

為替は前月に続き米トランプ大統領の上記政策の進展と為替への言及次第

それらを踏まえ予測は

上記政策が進展した場合ドル高円安が進むのが為替への言及があれば大幅円高に振れる場合も場合あり高値は3月後半高値一段高の110円台(TTM)を予測。いずれも行われなかった場合 安値の114円台を予測。

銅建値に関しては670-710円程度と予測している。